

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「告げられる喜びを信じて恐れずに」

— 新しい年を迎える前に —

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

「恐れるな。私は、すべての民に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」

(ルカ 2: 10-11)

今年1年も様々な出来事や変化がありました。ロシア軍のウクライナ侵攻が今も続いています。沖縄の施政権が返還されて50年を迎え、エリザベス女王と安倍元首相の国葬が行なわれましたが、その意味は大きく違いました。旧統一協会問題が深刻化し、質問権の行使や解散命令請求が議論され、マインドコントロールという言葉が再び注目されました。

日本聖公会の中では、4月に北海道教区に東アジアで初めての女性の主教が誕生し、6月にナザレ修女会が活動を終了して85年の歴史に区切りがつけられました。9月には牛込聖公会聖バルナバ教会が活動を終えて礼拝堂聖別解除式が行なわれ、来年から礼拝堂は管区事務所として、聖公会センタービルは収益事業化をして聖公会年金のために活用されていくことになります。

みなさまにとっては、どのような1年でしたでしょうか。

環境破壊の影響による異常気象や、大きな地震に備えた対策の意識も強めていきたいと思ひますし、ミャンマーやウクライナをはじめ戦火や弾圧に怯える人々、基地建設を押し付けられようとしている沖縄の人々、年末年始の寒さの中を孤独に過ごさなければならぬホームレスの方々、人権が蹂躪されている外国籍の方々、すべての人々に暗闇に輝くあたたかな光が届けられますようにと祈ります。

コロナウイルスと向き合って3年目を迎え、思うように交わりが深められない経験をしてきましたが、来年こそは対面での礼拝や活動を充実させていければと思います。

私たちに喜びを告げるため、様々な暗闇に光を灯すために

〇会議・プログラム等予定

(2022年12月20日以降・前回未掲載分)

1月

- 10日(火)～11日(水) 各教区正義と平和担当者の集い〔管区事務所〕
- 16日(月) ウィリアムズ主教記念基金委員会〔立教+Web〕
- 19日(木) 神学教理委員会〔管区事務所〕
- 24日(火) 聖公会センター検討チーム会議〔+Web〕

2月

- 1日(水) 人権問題担当者会議〔Web〕
- 4日(土) 原発はやめようよ Zoom カフェ・正義と平和・原発問題プロジェクト会議〔Web〕
- 5日(日) 各教区青年担当者会〔Web〕
- 6日(月)～8日(水) 主教会〔高知〕
- 13日(月) いのちを見つめる祈りの集い(憲法P)〔Web〕
- 14日(火)～16(木) 管区共通聖職試験〔各教区〕
- 21日(火) 年金委員会〔管区事務所〕
- 21日(火) 財政主査会〔+Web〕
- 23日(木) ハラスメント防止・対策担当者会〔管区事務所〕
- 24日(金) 主事会議〔管区事務所〕
- 27日(月) 常議員会〔管区事務所〕
- 28日(火) 正義と平和ジェンダープロジェクト会議〔+Web〕

<関係諸団体会議・他>

- 1月13日(金) NCC 役員会〔Web〕
- 24日(火) NCC 役員会〔Web〕
- 25日(水) 日本キリスト教連合会常任委員会〔Web〕
- 26日(木) WCRP 新春学習会〔立正佼成会〕

(次頁へ続く)

※管区事務所の就業時間

当面の間、新型コロナウイルス対策のため、就業時間を平日(月曜～金曜) 10:00～17:30 全員出勤勤務体制といたします。

📍管区事務所冬期休業

12月29日(木)～1月5(水)まで冬期休業いたします。よろしくお願ひいたします。緊急の場合は総主事まで。

生まれになるイエスさまの誕生をお祝いし、すべての人が恐れずに歩みを起こせる世界となりますように。

今年1年のお恵みに感謝しつつ、2023年も素晴らしい1年でありますようにお祈りいたします。

“ クリスマスおめでとうございます ”



(前頁より)

26日(木)～27日(金) 外キ協全国協議会・全国集会(川崎)

27日(金)～2月3日(金) USPG 国際協議会〔タンザニア〕

2月9日(木) NCC 役員会・常議員会〔Web〕

12日(日)～19日(日) 全聖公会中央協議会(ACC-18)〔ガーナ〕

□主事会議

第67(定期)総会期第2回 2022年11月30日(水)

<主な報告・協議>

- 海外出張について、タンザニアでのUSPG国際協議会(2023/1/27～2/3)にウイルソウウォーレン司祭(大阪/渉外主事)と金子登美江さん(北関東)、ガーナでのACC-18(全聖公会中央協議会 2023/2/12～2/19)に上原榮正主教(沖縄)、吉谷かおるさん(北海道)、小林真子さん(神戸/通訳)の参加を承認した。
- 2022年度管区一般会計収支予想について、補正は行なわないと判断し、常議員会に諮ることとした。
- 大斎克己献金国内伝道強化プロジェクト選定について、京都教区桑名エピファニー教会『地域住民のための「憩いの場」ともしび』の機能強化(会館改修)計画(申請額600万円)の支援を承認し、常議員会に諮ることとした。
- ミャンマー聖公会からの支援要請について、国内難民や困窮者への食料・医療支援のための要請額5,000 USD(訳70万円)の内、昨年7月の主事会議で承認したが送金先が定まらなかった未送金分30万円と合わせ、合計50万円(約3,500 USD)を緊急災害援助資金から支出することを承認した。
- 聖公会センタービルの収益事業に関わる東京教区と管区との貸借契約・覚書について確認した。
- 聖公会東アジア礼拝協議会(ALNEA、2023/2/7～2/13、台湾、礼拝委員・祈祷書改正委員から5名)について、研修支援金から30万円を援助することを承認した。
- コロナ禍対策特別協力金(教区分担金Iの10%＝約500万円)および聖公会生野センター・神学校のための信施への補填への支出を検討し、財政主査会と情報共有しつつ常議員会に諮ることとした。

次回会議：第67(定期)総会後第3回：

2023年2月24日(金)

□常議員会

第67(定期)総会期第3回 2022年12月6日(火)

＜主な決議事項＞

1. 海外出張に関して、武藤謙一首席座主教のブラジル・サンパウロでの日本人宣教100周年記念感謝礼拝への参列、および各所訪問(2023/3/3～3/16)を承認した。
2. 2022年度管区一般会計収支に関して、財政主事から説明を受けて補正を行なわないことを承認した。
3. 2023年度管区事務所職員の定期昇給および期末手当に関して承認した。
4. 大斎克己献金国内伝道強化プロジェクト選定に関して、京都教区桑名エピファニー教会の地域住民のための「憩いの場ともしび」

の機能強化(会館改修)計画に600万円の支援を承認した。

5. 聖公会センタービルの収益事業に関わる東京教区と管区との貸借契約・覚書に関して、確認のうえ承認した。
6. 2023年度BSAセミナー実施に関する後援名義使用許可等申請に関して承認した。
7. コロナ禍対策特別支援金と特別献金の補填に関して、昨年同様に各教区からの分担金Iの10%を支援し、聖公会生野センターと神学校のための主日を例年並みに補填することを承認した。

次回会議:

2023年:2月27日(月)、4月17日(月)

2022年教区会選出常置委員

北海道	聖職	大町信也(長)	下澤 昌	永谷 亮
	信徒	大友 宣	小澤暢子	矢部幸子
東北	聖職	八木正言	長谷川清純	渡部 拓
	信徒	赤坂有司(長)	畠山秀文	坂水かよ
北関東	聖職	矢萩栄司(長)	斎藤 徹	鈴木伸明
	信徒	谷川 誠	養田 博	廣瀬 清
*東京	聖職	上田亜樹子	卓 志雄	中川英樹(長)
	信徒	植松 功	黒澤圭子	後藤 務
横浜	聖職	片山 謙	田澤利之(長)	宇津山武志
	信徒	中林三平	岩井譲治	澤登康子
中部	聖職	江夏一彰	後藤香織(長)	大和孝明
	信徒	上野光一郎	池住 圭	下条和子
京都	聖職	出口 崇(長)	古本みさ	小林宏治
	信徒	出口 弘	中川典子	高垣成美
大阪	聖職	内田 望	小林 聡(長)	千松清美
	信徒	辻 節子	辻 彩乃	寒河江研司
神戸	聖職	上原信幸(長)	林 和広	小南 晃
	信徒	大東正人	弘井宗子	末永 忍
九州	聖職	李 浩平	牛島幹夫	島 優子
	信徒	金野実加枝	濱生牧恵	細川眞二
沖縄	聖職	金 汀洙(長)	岩佐直人	高 英敦
	信徒	並里 厚	宮城正子	大田千枝子

* 東京教区は常置委員を毎年3月の教区会で選出

 ≪人事≫
東京

司祭 ヨセフ太田信三	2022年11月19日付	東京教区事務所	総主事代務解任
	2022年11月19日付	東京教区事務所	総主事任命
	2022年12月31日付	東京教区事務所	宣教主事解任
マーガレット・マリア福澤眞紀子	2023年1月1日付	東京教区事務所	宣教主事任命
執事 ウィリアムズ藤田誠	2023年1月1日付	東京教区事務所	宣教主事補任命
執事 セシリア高柳章江	2023年1月1日付	東京教区事務所	教務主事任命
ジョアンヌ田中まき	2022年12月31日付	東京教区事務所	宣教主事補解任
	2023年1月1日付	東京教区事務所	教務主事補任命
マルコ松村豊	2022年12月31日付		定年により退職
		東京教区事務所	教務主事補解任
	2023年1月1日付	東京教区事務所	非常勤職員囑託 (任期2023年3月31日まで)

大阪

司祭 シモン原田佳城	(神戸教区より出向) *	『管区事務所だより第380号』	掲載分日付訂正
	2022年10月22日付	日本聖公会法規第198条(2)(3)	により、大阪聖パウロ教会教会牧師を解任する。
		また第201条(2)の懲戒処分とし、	休職を命ず。期間は2023年3月31日までとする。
		この間、主教座聖堂付きとし、	陪餐は停止する。



『聖公会手帳 2023』お詫びと訂正

- * 305頁 ❖ (福) 九十九里ホーム 九十九里ホームデイサービスセンター
住所 (正) 匝瑳市飯倉19番地1 (誤) 匝瑳市飯倉17番地1
- * 305頁 ❖ (福) 九十九里ホーム 飯高デイサービスセンター
管理者のお名前 (正) 山下勝也 (誤) 川蔦恵子
- * 306頁 ❖ (福) 九十九里ホーム 老人保険施設 日向の里
施設長のお名前 (正) 川村幸治 (誤) 佐藤政教
- * 306頁 ❖ 九十九里ホーム病院
院長のお名前 (正) 石毛則男 (誤) 田中方士
- * 196頁 2024年2月11日
主日名 (正) 「大齋節前主日」 (誤) 「顕現後第6主日」
*ハンセン病問題啓発の日 2月11日⇒2月4日
(*例年は顕現後第6主日、第6主日がない年は、大齋節前主日の1週間前の顕現後主日)
以上、お詫びして訂正いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

管区事務所

□ 「代祷表 2023年」について

ACP (Anglican Cycle of Prayer) 発行の代祷表(翻訳版)は、2022年より翌々2か月分を『管区事務所だより』の同封物とすることになり、発行のタイミングにより2023年1月の代祷表表紙に“キリスト教一致週間(毎年1月18日～25日) 2023年の年のテーマ”を掲載できませんでした。

2023年のテーマは、「善を行い、正義を追い求めなさい」(イザヤ1:17参照)

(キリスト教協議会ホームページ<http://ncc-j.org/> エキュメニカルカレンダーより)

ご理解いただき、ご加祷のほどよろしくお願いいたします。

管区事務所



『聖公会手帳』 2023

各教区事務所・教務所の協力のもと刊行いたしました!



☆日本聖公会
管区事務所責任編集

好評発売中

(完売) 夫判型 2,200円
ポケット版 1,200円
(税込)

ご予約はお早めにパイブルハウス
南青山(03-3567-1995)またはお近
くの書店まで!

- ✳ 読者アンケートからの利用者の声を誌面に反映。
- ✳ 2023年度 教会暦・日課表を完全収録。
- ✳ 祈りのページを大幅に増補。

(写真はイメージです)

管区財政・2022年を振り返る

＝各教区財政担当者との「密」をめざしての新しい動き＝

管区財政主事 鈴木 裕子

コロナ禍三年目も、残すところ10日あまりとなりました。昨年の暮れと大きく変わったのは、街中を行き交う人々の数と声の大きさでしょうか？さすがにマスク無しの姿は少ないですが、満員電車、人混み、笑い声も珍しくはありません。

そのようなトレンドからは無縁な管区の財政状況ではありますが、本年6月に4年ぶり対面での開催となった、総会決議をへて、新しく動き始めたことが3件あります。

その① 教役者給与支援システムへの提言

2020年の第65(定期)総会で宣教協働区、伝道教区制が承認されたことで、長年の懸案事項であった、教役者給与の教区間格差の調整のため、2021年に「教役者給与調整タスクフォース」が常議員会の中にたてられて動き始めました。座長を中心に各教区へのヒアリング、データの収集・分析を行い、検討をかさねて「管区標準給与規定原案」と教役者の「管区標準給与表原案」を提示しました。給与表の体系については、「教役者は生涯福音伝道のために捧げる。との決意に鑑み、職位に関わらず一律とする。」との共通理解のもと、各教区のバリエーションを生かしていただきたいと思います。

その② 聖公会年金受給額の改定について

1968年、米国聖公会婦人会からの献金を基金とした発足以来、現在までに退職された聖職やご遺族の生活の一部を支えてきましたが、現実には聖職を志願される方が大幅に減少しており、年金支給額が加入額を大きく上回った状況が続いており、加えて運用利益も当初に比して

極端に低金利となっています。管区の年金委員会として年金制度は、維持・継続する必要があるとの認識の下、様々な検討を続けてきましたが、「受給額の減額はやむを得ず」との結論に至り、その公正を期すための綿密なヒアリングと査定をもとに検討を重ねて、減額案を総会に提案して、ご承認をいただきました。2年間の移行措置期間をへて、支給額の平均15%減額が実施されます。

その③ 聖公会センタービルの改修事業について

聖公会センタービルに隣接する、旧牛込聖公会聖バルナバ教会は、諸般の事情により2020年12月末で教会活動を終了して2021年5月に聖アンデレ教会と合併し、本年9月の聖堂聖別解除式によりその役割を終えました。そこで、管区事務所を礼拝堂部分に移し、聖公会全体(年金資金)に寄与するため、聖公会センタービルを改装して、テナントビルとして賃料収入を得る旨の新規事業を提案し、総会でご承認いただきました。計画の遂行のため、新たに「聖公会センター検討チーム」を常議員会の中に発足させ、準備を開始しているところです。現時点での2024年の改修完成・事業開始を予定しています。

このように、管区財政の働きは、あまり目にはし難いことのない「地味な」ものですが、実のところ、とりわけ各教区財政担当者の皆様とは大変「密」な働きと心に留めております。殊に2020年以降コロナ禍で打撃をうけた各教区に、教区分担金の1割を支援させていた

だいております「コロナ禍対策特別協力金」ですが、未だに終息する気配が見えない状況を鑑みて、今年も3回目の支援を予定しております。これからも、皆様のご意見ご要望等遠慮なくお寄せいただけますと幸いです。 感謝して



世界の聖公会の動向

- ☆ 聖公会代表団が気候問題について声を上げる
- ☆ カンタベリー大主教、モザンビークを訪問
- ☆ ウェールズの「聖なる山」での気候巡礼

管区渉外主査
司祭 ポール・トルハースト

○ 聖公会代表団が気候問題について声を上げる

C OP27で聖公会代表団は、気候変動被害を軽減するための実際的な行動を要求する世界の聖公会における署名人の一人である指導者に賛同を示した。

サミー・フォージー・シェハタ大主教は、アレクサンドリア聖公会の首座主教であると同時に、COP27開催地となったエジプトの主教でもある。サミー大主教は次のように述べた。「世界規模の変化と経済危機の中で、ここ北アフリカでは、北半球の豊かな国々がインフラ改善を行い、世界中を深刻に脅かす環境問題に関与していくことを強く希望しています。交渉から実行へ、そして言葉から行動へと移すことができるよう祈っています」

この呼びかけに賛同した53人の署名人は、セーシェル、ナイジェリア、ジンバブエ、南アフリカ、オーストラリア、そして米国の聖公会や監督派教会を含む、多くの教会、修道会、その他の宗教団体を代表している。

信仰指導者たちは、気候変動によって領土、生物多様性、文化、アイデンティティを失いつつある太平洋やカリブ海などの小さな島国から最も強い声が寄せられていると指摘した。

この呼びかけでは特に「気候変動資金」の重要性が主張され、裕福な国々に対し、債務を帳消しにして現在のような融資の形式ではなく助成金に基づいた適切な新資金を提供するよう求めている。

○ カンタベリー大主教、モザンビークを訪問

カ ンタベリー大主教はこのほどモザンビークを訪れ、2021年にアングリカン・コミュニオン（AIC）の42番目の加盟メンバーとなったモザンビーク・アンゴラ聖公会の新管区設立祝賀会に参加した。

訪問に合わせて、大主教はモザンビークの首都マプトで同国のアドリアーノ・マレイアーネ首相と会談し、平和・和解・暴力抑制の重要性や、天然資源や観光資源に恵まれたモザンビークの将来性について話し合った。

また、政府関係者、キリスト教指導者、イスラム指導者、和解活動に携わる10代や20代の若者、さらに総数は100万人に及ぶ、戦争で故郷を追われ避難を余儀なくされた人々と面会した。

昨年9月、ジャスティン大主教はランベス宮殿から動画接続にて新教区の発足式に臨んだが、コロナ規制緩和により今回の訪問が実現することとなった。

大主教は説教の中で、モザンビークとアンゴラが共有する植民地時代の歴史と、自由を求めた闘争について語った。また、国の北部で現在行なわれている平和活動について触れ、コミュニティが立ち上がって急進派に対抗していることを称賛した。

○ ウェールズの「聖なる山」での気候巡礼

3 人の宗教指導者が気候変動対策を訴えるため、宗派を超えてウェールズの聖なる山を巡る「巡礼」に参加した。



前カンタベリー大主教のローワン・ウィリアムズ博士、ウェールズ聖公会モンマス教区主教のチェリー・ヴァン師、ユダヤ教上級ラビのジョナサン・ウィッテンバーグ師が、共にウェールズのアバーガベニーに近いスキルドを歩き、山で木を植え、気候変動対策のため祈り、賛同の意思を示した。

このイベントは、先日開催されたCOP27サミットで信仰指導者たちがエジプトのシナイ山で行なった、同様のウォーキングに続くものである。スキルドはキリストが磔にされた瞬間にその一部が崩落したという言い伝えから、ウェールズで聖なる山として知られている。

「苦小牧より感謝をこめて」

—苦小牧キリスト教船員奉仕会、37年間のあゆみ—

北海道教区 司祭 サムエル 吉野暁生

2022年11月19日(土)、晴れた日の朝。苦小牧市双葉町にあったシーフェアラーズセンター跡地で、苦小牧キリスト教船員奉仕会閉所感謝礼拝が行なわれました。故町田巖執事の願いによって、1986年に市内の4教派5教会とMtS、AOSの協力を得て始められた「苦小牧キリスト教船員奉仕会」の活動が37年の幕を下ろすことになりました。

超教派の協働の中で始められた苦小牧の活動は世界でもあまり類例がなく、MtSやAOSの名前をお借りする形で、いわば「苦小牧スタイル」として、さらに市民ボランティアの力も借りなが

ら運営されてきました。また多くの船舶代理店やITF(国際運輸労連)なども協力してくれました。しかし、もともとあった高齢化や担い手不足の問題に加え、新型コロナウイルスの流行によって、活動の中心としてきた船員たちのセンター利用が難しくなり、訪船もままならず、ここ2年ほど活動休止状態が続いていました。そしてついに、2022年6月30日に開かれた苦小牧キリスト教船員奉仕会総会において「解散」が決議され、10月にはセンターの解体を済ませ、この閉所感謝礼拝を迎えることになりました。

苫小牧市双葉町にあったカトリック(メリノール会)の古い会館を利用しながら始められたこの活動は、多くの市民ボランティアの協力も得ながら、苫小牧に入港する外航船に訪船をし、上陸した船員たちをもてなし続けました。1987年には苫小牧シーメンズクラブ(のちにシーフェアーズセンターと改称)をオープン。中には小さな礼拝堂のほか大きなホールに卓球台やビリヤード台を備え、国際電話の使用できる公衆電話を4台設置しました。

船員たちは上陸すると、遠く離れた家族に国際電話を掛けるため、公衆電話に行列を作っていました。市内に買い物に出る人、ボランティアたちと会話を楽しむ人、ビリヤードや卓球に興じる人など、多くの船員さんたちがここで羽を休めていきました。

市民ボランティアもたくさん足を運んでくれました。向かいにあった中学校の先生が、英語の勉強を兼ねて中学生たちを連れてくることもあり、国際交流が活発に行なわれました。ボランティアと船員さんのロマンスもあったとか。夏には船員さんたちを招いてバーベキューパーティ、冬はクリスマス会と、楽しいひと時もたくさんありました。37年で約90か国、延16万人以上の船員さんたちがこのセンターを利用しました。

しかし時代が変化し、公衆電話は携帯電話に変わり、スマートフォンやタブレットを利用したテレビ電話が主流となり、船員さんたちのニーズ

も変化してきました。センターの売店を利用するよりも市内の大型ショッピングセンターやハードオフなどの中古店に行きたがる人が増え、公衆電話よりもwi-fiを利用したテレビ電話をする人が多くなりました。センターに滞在する時間が減ることによって大きなホールもほとんど使われなくなっていきました。

物流の速さが上がることによって船の係留時間が減り、その分船員たちの上陸時間も減りました。従ってセンターなどを利用する時間も減ってしまったのです。世界はますます狭く便利になっているけれど、船員たちにはその分負担がかかるような世の中になってきているのです。センターも船員たちのニーズに何とか応えようとしてきたけれども、人的なリソースも時間的なリソースも足りず、今回の解散・閉所に至ることになりました。

これまでの37年間、皆さんの「海の主日献金」によってわたしたちの活動は支えられてきました。みなさんの献金によって多くの船員たちが羽を休め、家族との絆を確認し、明日への活力を得て再び旅立っていきました。みなさんのお支えに感謝します。船員たちが物流を担っていることでわたしたちの生活も支えられています。そのことをいつまでも覚えながら、これからも横浜、東京、神戸で活動が続けているMtSの活動をお支えくださいますように。苫小牧より感謝を込めて。



新型コロナウイルス（COVID-19）に関連する 各教区の対応

北海道教区 原則として礼拝（公禱）を行なうが、各教会で判断

- ・教会での礼拝は主日・週日いずれも定時に行ない、誰でも参加可能。
- ・感染対応をこれまで通り実施しながらも、教会活動、ことに礼拝における実践を可能な範囲で少しずつ拡大していくことを勧める。（あくまでも「可能な範囲で」）
- ・礼拝に関して不安や恐れがある信徒は自宅で礼拝を守ってもよい。

東北教区 原則として礼拝（公禱）を行なうが、各教会で判断（休止は主教に連絡の事）

- ・十分な感染対策をすること。（衛生用具の再点検実施の事）
（十分な換気、消毒、場合によっては入場者制限、飲食の休止、地域状況にも留意する、外部に呼びかけるプログラムは感染状況勘案の上決定すること。）
- ・葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。
- ・引き続き警戒は緩めないこと。（No.9 遵守のこと）
- ・司式者のみ2種陪餐とし、奉仕者・会衆は1種陪餐とすること。
- ・堅信受領者総会開催については十分な感染予防に徹すること。

北関東教区 礼拝（公禱）の再開または休止

- ・各教会・礼拝堂で協議し、地域社会と共同体の状況により適切な対応を講じる。
- ・葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。

東京教区 礼拝（公禱）の公開または休止

- ・感染状況の懸念が深まる中、各教会・礼拝堂での礼拝の公開などは、感染防止の対策の上、それぞれの状況にあわせて実施。
- ・幾つかの教会・礼拝堂は公開の礼拝を休止している。

横浜教区 礼拝（公禱）の公開

- ・「礼拝指針」（更新・2022年6月版）の徹底。
- ・「新型コロナウイルス感染者発生時の教会対応ガイド」の順守。

中部教区 礼拝（公禱）の再開

- ・主日及び週日の礼拝再開、休止については『礼拝再開に関するガイドライン』に基づき各教会で判断。
- ・緊急事態宣言等下のエリアにある教会は原則礼拝等休止。
- ・聖歌歌唱及び二種陪餐再開については主教に報告の上実施。

京都教区 各教会で判断

- ・感染者が増加しており、引き続き感染防止対策は行う。
- ・主日礼拝の方法は各教会の判断としている。

大阪教区 礼拝（公禱）の再開

- ・各教会の事情には違いがあるので、各教会の判断を尊重する。
- ・リモートの活用などに引き続き取り組む。（リモートが使えない方へ配慮しつつ）

神戸教区 礼拝（公禱）の公開

- ・教区自粛基準（4/4改訂）に従って礼拝を実施。感染状況によって各教会牧師は教会委員会に諮り、教区主教と相談する。

九州教区 礼拝（公禱）の一部休止

- ・無理に主日礼拝に来ることをお勧めしない（体調の悪い方・公共の交通機関で教会に来られる方など）。

沖縄教区 礼拝（公禱）の再開

- ・引き続き十分な感染症対策を行なう。（マスク着用、手指消毒、換気、会衆席の間隔確保等）
- ・主日礼拝へは無理に出席しない（体調不良、濃厚接触等）。

- ・陪餐（一種、二種）、聖歌の歌唱等は各教会で判断。

管区事務所 勤務体制の変更

- ・引き続き当面の間、平日（月曜日～金曜日）10:00～17:30の出勤勤務時間短縮体制。

- * 毎月1回、情報更新をいたします。管区のHPにも掲載（英語版もご用意）しておりますので、ご活用ください。

（2022年12月20日現在）

総主事

司祭 エッサイ

矢棘 新一

主教
心カ武藤謙一

日本聖公会首座主教

鈴木 一

Waver
Wilson

広報主事

Steven

渉外主事

Jihwoong
TAKK

宣教主事

及川 史子

スタッフ

セシヤ
Hiroko Suzuki

財政主事

了江 金子登美江

総務主事



鎮不土 巧リ
Cealia 99

スタッフ

サ
化村 浩元

スタッフ

水谷 牧子

スタッフ

鳥居 雅志

スタッフ

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。